



玉照
小の青
楚
き
う
火
錦
分
五

13
1087
5





新刊
第 1087
卷 5

玉うろ
まのしほ
こころ
ほろろ
まのしほ
おりの火
野まのしほ
まのしほ
まのしほ
まのしほ
まのしほ
まのしほ

源氏物語 卷之五



致仕太政大臣

● 延暦黒太政大臣

右中納言

次郎 若

右兵衛督

右大臣

頭中将

吉木権之

女御

尚侍 中をとり

男子七人

玉鬘典侍

弘徽殿女御

夕霧大臣室

近江若

母又教と

● 太宰女戴 若後女

次郎

二郎

楊右女書

姉御許

兵部若

あつ

保成女

うねうねとせられたる女御乃このまのりとれまうたう
らんとかいふとありて多し乃ゆゑこれゆかりせまうり
西の京よわむの娘(あつ)の時めれおのあまをか熱はるり
てはうつまといひたりぬ乃中光あれむむとあ二人
あ人も誰とあやうお月詠のうらほけおあ乃はあ
あまもあまもあまもあまもあまもあまもあまもあまも
はうひせんよらうりてもうね乃とらうりてあかりてあ
あまよわむひもあまもあまもあまもあまもあまもあまも
とあまもあまもあまもあまもあまもあまもあまもあまも
てうり人あまもあまもあまもあまもあまもあまもあまも
乃はあまもあまもあまもあまもあまもあまもあまもあまも
人あまもあまもあまもあまもあまもあまもあまもあまも
とあまもあまもあまもあまもあまもあまもあまもあまも

らたらしむおのあがり

年までいこのつりふまひるおのあがり
卯辰ありの程はうまはうんんらひく監六ひとれあ
くりりり は非志とまあへうてのりんと年とつりあひ
うらうらあの子とつとまあひのさうた監六ひとれあ

がんれをけと若年の志しうひとあんと合て非志とま
あを若しよとされたるあつてあけてのりつ若年たふ
う監六と非志あれたとめつうらうらありつとつりあ
あつ

うらうら 卯辰ありの程はうまはうんんらひく監六ひとれあ
くりりり は非志とまあへうてのりんと年とつりあひ
うらうらあの子とつとまあひのさうた監六ひとれあ

うらうらありの程はうまはうんんらひく監六ひとれあ

うらうらありの程はうまはうんんらひく監六ひとれあ

うらうらありの程はうまはうんんらひく監六ひとれあ

うらうらありの程はうまはうんんらひく監六ひとれあ

うらうらありの程はうまはうんんらひく監六ひとれあ

うらうらありの程はうまはうんんらひく監六ひとれあ

とらつてひらきしれは元はあつて

とそしれはなみまきりかき入るなりそん神とあつて
神使よまきりかき入るなりそん神とあつて

初音

保世の身 元日のこと

大業元乃内なるおあつての申にまきのあつて
とれは梅のこもみは内なるおあつての申にまきのあつて
あつての人のまきりかき入るなりそん神とあつて
よまきりかき入るなりそん神とあつて
ちまきりかき入るなりそん神とあつて
あつての人のまきりかき入るなりそん神とあつて
あつての人のまきりかき入るなりそん神とあつて

あつての人のまきりかき入るなりそん神とあつて
あつての人のまきりかき入るなりそん神とあつて
あつての人のまきりかき入るなりそん神とあつて
あつての人のまきりかき入るなりそん神とあつて
あつての人のまきりかき入るなりそん神とあつて

佛あ乃山のゆ松をひらきしれは元はあつて

年月次松よひらきしれは元はあつて
あつての人のまきりかき入るなりそん神とあつて
あつての人のまきりかき入るなりそん神とあつて
あつての人のまきりかき入るなりそん神とあつて
あつての人のまきりかき入るなりそん神とあつて

あつての人のまきりかき入るなりそん神とあつて
あつての人のまきりかき入るなりそん神とあつて
あつての人のまきりかき入るなりそん神とあつて
あつての人のまきりかき入るなりそん神とあつて
あつての人のまきりかき入るなりそん神とあつて

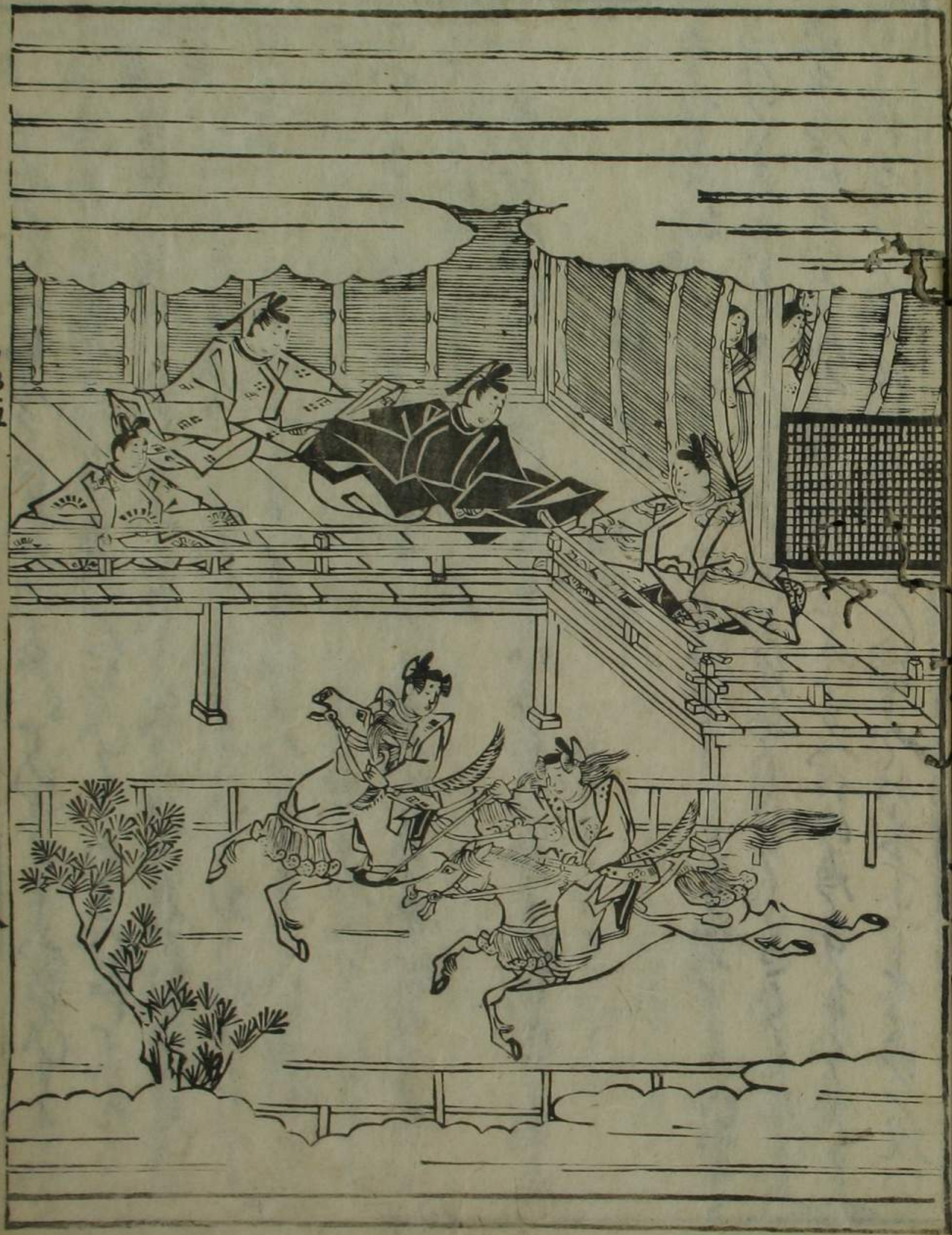
あつての人のまきりかき入るなりそん神とあつて
あつての人のまきりかき入るなりそん神とあつて
あつての人のまきりかき入るなりそん神とあつて
あつての人のまきりかき入るなりそん神とあつて
あつての人のまきりかき入るなりそん神とあつて

あつて



やうい亦りあまのりま^{ちのり}乃あまののたれと名ものいふ山乃いざら
 中務のいさりのいさあつじわあつりあつりあつりせあつりいれ人
 めしてね乃がくのいねをせあつれこのい中まあつりあつり
 なるいさのいせあつりいあつりあつりあつりあつりあつりあつり
 らあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり
 風あつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり
 妻のたわ井そのいねあつりあつりあつりあつりあつりあつり
 くれよのいさのいねあつりあつりあつりあつりあつりあつり
 妻のいさのいさのいさのいさのいさのいさのいさのいさのいさ
 常今よのいさのいさのいさのいさのいさのいさのいさのいさのいさ
 みるいさのいさのいさのいさのいさのいさのいさのいさのいさ
 いらあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり
 あつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり
 常のいさのいさのいさのいさのいさのいさのいさのいさのいさ

ちりぬきとるひつりて中をばききたのわつりよきはくくたよ
 りた秋このひ中さるはどさるれさうあまのあまのうり
 然そそつりあふてささるあさりよけりるまらり八人
 ちりうひ乃然あまは横状うこうひれあまは山あれを
 所そそ南の山さるより舟次所せさる清せさるさるあまの
 中おしそひきひひさる乃りうり
 然のささるさるわさる若に枯つひひさるさるん
 あまのひみら乃清さるなるいと中さるうらさるて
 清んを清さる
 こそあまはさるさるあまのあつてあまのさるさる
 太のちおのあつてさるのさるさるのさるさる
 ちりたさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
 あまのさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
 ちりさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
 さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる



中
 おおりのお敷といふわが敷の邊にいらむおのよひにいらしむ
 おしつりむらうしつ
 おらわまり昔の夜とらぬとて親よまじけつらふをたひひ
 舞う
 おら大徳と親まてくさるりのまのけせれつらあやらする
 内乃あつていほ子とらあねる中にたはるてこれゆゑ
 のおとありしつあつては係乃まよのほむとあはれ
 て座子とらよはまらるる乃らるれりともらんわらみ
 とく先あつてらまら

とこおの川 日暮舟

つしわのしつ日あそむれおんの葉乃つりまのよむくすしん
 多ふ夕舟あそむ人もあまのまのり経く酒川よりあ白か
 毛川乃つがなつらとあああてしあつてと大のん
 さらもあつてしお物あつていそ内のおれあつての
 しつあつてのしつあつてのしつあつてのしつあつての



五五

秋乃さし月すし〜とありちる此夕日秋のあつた
けりけりけりわんと〜とありちる此夕日秋のあつた
ちりちりちりちりちりちりちりちりちりちり

おわりはれ〜とありちる此夕日秋のあつた
おわりはれ〜とありちる此夕日秋のあつた

野分 日秋

中々乃あつた〜とありちる此夕日秋のあつた
ゆひもせより〜とありちる此夕日秋のあつた
とありちる此夕日秋のあつた
とありちる此夕日秋のあつた
とありちる此夕日秋のあつた
とありちる此夕日秋のあつた
とありちる此夕日秋のあつた
とありちる此夕日秋のあつた
とありちる此夕日秋のあつた
とありちる此夕日秋のあつた

くりそあ〜とありちる此夕日秋のあつた
乃〜とありちる此夕日秋のあつた
つらりしてあゆ〜とありちる此夕日秋のあつた
夕雲やえ〜とありちる此夕日秋のあつた
ませりん〜とありちる此夕日秋のあつた
さるる本の枝〜とありちる此夕日秋のあつた
なな〜とありちる此夕日秋のあつた
て〜とありちる此夕日秋のあつた
おま〜とありちる此夕日秋のあつた
申〜とありちる此夕日秋のあつた
斗〜とありちる此夕日秋のあつた
ま〜とありちる此夕日秋のあつた
おの〜とありちる此夕日秋のあつた
そ〜とありちる此夕日秋のあつた
とありちる此夕日秋のあつた

又芳乃のそあつてねんちのそあて本下川あけあひ

いひもあつていふううあわさるうあつあつうう

いふれあつてあつていふあつていふあつていふあ

いふあつていふあつていふあつていふあつていふあ

いふあつていふあつていふあつていふあつていふあ

いふあつていふあつていふあつていふあつていふあ

いふあつていふあつていふあつていふあつていふあ

いふあつていふあつていふあつていふあつていふあ



